

## 緩和ケア施設

# さとわ

No.3

### 緩和ケア施設「さとわ郷和」理念

- 1.豊かな自然環境の中で、その人の気持ちに添ってケアするとともにその家族を支援します。
- 2.その人のもつ苦痛の緩和につとめます。
- 3.その人の希望に添って自宅での生活を支援します。

## 郷和、この1年

施設長 桜井 金三

郷和も今夏で5年目に入りました。助走の時を終え、本格的なあゆみを始めました。郷和の存在と役割も新潟・下越地域に徐々に浸透し、病床の利用も常に70%以上を維持しております。これからも初心を忘れず、緩和ケアをより深化させていきたい、とスタッフ一同意志を強固にしております。

この1年の出来事として特筆すべきこととして、5月に開設以来の懸案であった遺族会の第1回目を開催することが出来たことがあげられます。たくさんのご遺族にご参加いただき、残された家族のグリーフケアとして、また日頃のケアの振り返りとして、亡き人々を偲び、懇談の時間を持つことが出来ました。もう一つは、ボランティア育成のための第2回目の講座を開くことが出来ました。10数名の方が参加され、全員が講座を無事修了されました。嬉しいことにそのほとんどの方がこれから郷和でボランティアとして活動して下さることになっています。

郷和のボランティア活動もより充実したものとなっていくと期待しております。

日頃の診療面では、ドルミカムを使用した患者さんについて、ふりかえり、検討を行いました。そこから発展させて、スタッフ一人一人が緩和医療の倫理的な側面をより掘り下げるべく、勉強を続けております。今後は、郷和独自の鎮静（セデーション）のマニュアル作りへと進展させていく予定です。これまでの4年の実践の中で身体面のケアにはある程度の自信もついてきましたが、スピリチュアルケアに関してはまだまだの感は否めません。さらに深めていく必要性を感じております。

ボランティアさんの活動も活発になり、穏やかな中にも活気のある生活を患者・家族の皆様を送っていただけると思っています。我々スタッフはますます診療のレベルアップに努める所存です。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

(2005/9/25)



当施設では、平成17年6月から8月にかけて【第2回ボランティア養成講座】を開催いたしました。12名の方より講座の申し込みがあり、11名が終了されました。新しく、ボランティア登録をされた方を含めると、現在22名のボランティアが活動しています。

## ボランティア講座を終えて

### 堀水克也

「ボランティア定例会のお知らせ」は、ボランティア活動の登録、定例会の案内でした。七回の講座、アンケート、面接などが昨日のことのよう思い出されます。

新しい出会いの始まりです。「〇〇です。よろしく願いします。」の短い言葉にも、真剣な想いが伝わりました。和気藹々の空気のなかで楽しい講座でした。

面接の日、また皆が顔を合わせました。久しぶりの再会です。面接を待つ間は、「何を質問される?」「ドキドキだなあ」などワアワアと、時には大きな笑い声で盛り上がりました。面接の後は帰ってもいいのですが、皆さん面接の話で、奇妙な連帯感みたいな感じで全員が終了するまで話題はいろいろで楽しい時間を過ごしました。

ボランティアの仲間の皆さんと「自分でできることを、できるときに、できる形で」と思っています。

机の上に小さな器があります。一輪の花は黙って咲いています。当たり前のことですが、同じ花でも喜怒哀楽、季節、場所、時間などによって感じが変わります。時には話しかけ、微笑み、涙し、想いを受け止めてくれます。

今ある時を大切に、利用者の皆様、ご家族の方が少しでも穏やかで和まれる生活を過ごされるよう、お手伝いさせていただきます。





## 「郷和 家族の会」を開催して

看護師 桐生 和子

開設後四年近く経った新緑の季節に「第一回郷和家族の会」が開かれました。初めてであり手探りの状態での開催でしたが、予想以上に多くのご家族の方から集まっていただき、懐かしく嬉しいひとときの集いとなりました。

あいさつの後、ご遺族のお一人の方に、病気がわかってから見送られるまでの患者様や寄り添うご家族の気持ちの変化、葛藤、迷い、家族の結びつき等について、当時を振り返って話していただきました。その後、グループ内でお茶を飲みながらのフリートーキングとなり、最初は皆緊張していましたが、次第に表情や気持ちもほぐれ、和やかな雰囲気の中話が進みました。

告知を受けたときの辛さ、当施設を選択するまでの経緯とところのゆらぎ、家族としての想い等、時が経って話ができることもあり、改めてご家族の悲しみの一片に触れたような気がしました。また、見送って一年経った今でも退院した時の道具を片づけられないと、辛さを語った方もいました。

病棟目標の一つに【家族の会を通してケアの振り返りをする】と掲げてあります。参加してみて、それが感じられる最適の場だと思いました。ご家族が感じたことを話す中にケアに生かすべき多くの課題があり、それに気付くこと、そして実践することで患者様、ご家族の方から育てられている私達スタッフがいることを強く実感する次第です。

今回参加されたご家族の多くが、アンケートの中でこのような会への参加を望んでいました。生の声を聞き、改めて遺族ケアの重要性や定期的に関ることが大切と感じています。会の案内にも返事が来なかった方への対応はどうか等課題も見えて来ていますが、一回ずつ会を重ねながら自らを振り返りながらご家族がよい時間を過ごすことができるようにしていきたいと思っています。

## 記念行事



今年の8月6日（土）、ひまわりクリニックの森津 純子先生をお迎えし、講演会を開催しました。

当院のスタッフの他、近隣の病院の看護師も多数参加し、「患者・家族とのコミュニケーション」というテーマでお話して頂きました。

演劇をされていたという森津先生の、感情表現豊かなお話に笑いあり涙ありのあっという間の1時間でした。



## ご家族からのお便り

ご家族 藤 巻 隆

在院中は大変お世話になりました。心からお礼申し上げます。  
早いもので妻亡き後三ヶ月が過ぎようとしております。  
覚悟はしておりましたが、一人暮らしは侘しいものです。  
くよくよしても詮ないことと明るく元気に過そうと頑張っ  
ています。

いつも励ましのメッセージ心から感謝しております。

皆様も元気に頑張ってください。アリガトネ。

### 編集後記

広報「さとわ」第3回を発刊することができました。

今年は、森津純子先生の記念講演、初めての遺族会、第2回ボランティア養成講座の開催など様々な事がありました。多くの経験を重ね、患者様・ご家族の皆様心地よい環境でより充実した時間を過ごしていただけるようスタッフ一同努力していきたいと思っております。

### 「郷和」利用状況

(H.16年4月～H.17年3月)

入院患者数	134名
一日平均入院利用者数	15.1名
平均病床利用率	75.3%
平均在院日数	44.7日

編集・発行 南部郷厚生病院 併

緩和ケア施設「郷和」

〒959-1704 新潟県中蒲原郡村松町甲2925-2

TEL(0250)58-6111(代) FAX(0250)58-7300